

令和4年度 学校評価(自己評価)結果表

令和5年1月

(学校法人)青葉学園 青葉学園幼稚園

教育活動について、目標を設定し、その達成状況を整理して取り組みの適切さを検証し、自己評価を行った。

1. 本園の教育目標

本園の3つの教育目標 『元気に遊べる子』『根気よくやりぬく子』『素直で思いやりのある子』

個人を尊重し、遊びの中から自らよく考え、いかなる困難にもくじけず、すこやかに成長し、常に将来に向って芽生えて行く、新しい芽の育成と、国際人として21世紀に活躍できる生きる力の基礎づくりを目標としている。

2. 本年度重点的に取り組む目標は各学年で次の通りである。

年少 基本的な生活習慣を身につけ、自分なりの方法で園生活を楽しむ。

年中 いろいろなことに興味、関心を持ち、自分なりの力を発揮して表現することを楽しむ。

年長 人との関わりを通して自主性・協調性などを身につけ自立心を高める。

幼稚園教育要領を踏まえ、評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教職員が自ら客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

1. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 (A...十分に達成されている B...達成されている

C...取り組まれているが成果が十分出していない D...取り組みが不十分である)

	評価項目	自己評価	評価の理由
1	教育目標・保育計画 園の教育目標、教育課程を理解し、それを基に子どもの実態をふまえて保育計画をたてている。	A	子どもの実態に合わせて計画を立てることができている。時代の変化にあった教育内容・計画を立て、定期的に目標などを振り返る機会があればさらに良いと思われる。
2	園児理解 一人ひとりの子どもをよく理解し、個性や努力は、公平に評価している。子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	B	子どもの個性が豊かで、教職員が手立てに苦勞している様子が見られるが、年間を通してみると園児理解は進んで、よくなっていると思う。保育中は手立ての正解が見えにくいので、自分の保育を他の教職員に見てもらおう場を設けるとさらに良くなるのではと思う。

	評価項目	自己評価	評価の理由
3	教育環境の構成 子どもの活動がより豊かになるよう、自ら展開をしていけるような場や空間の構成をする。	B	行事などを通して、環境の構成はよくできていたと思われる。日々の遊びの中で子どもたちともう少し取り組むことができるのではないかと、今後、工夫をしていきたい。
4	学校安全 教職員は園舎内、外とも点検を行い、子どもたちの行動内容を事前に予測し、環境を整える。	A	遊びを見守りつつ、安全にも配慮している。園バスの安全対策を見直したり、子どもの安全・状況を把握できるようにシステムを改善したりと安全対策を徹底して行った。
5	教職員同士の連携 子どものことについて各学年で話し合い、共通理解をし、各クラスでの成果と課題を報告する。	B	各学年で起こった問題や困りごとを報告・共有して、解決・改善している。一方、コロナ禍の中、他学年へのかかわりが薄くなっており、幼稚園全体の問題としてとらえることができるようにしていくことが今後の課題である。
6	保護者対応 保護者理解に努めるとともに、丁寧に個別の保護者に対応している。	B	個人面談や電話で個々に対応できていると思われる。保護者とはバス・歩き登園により会う機会の差があり、全保護者と同じ関係になることは難しい。
	総合的な評価結果	B	様々な活動や行事を通して、取り組みに関して概ね目標は達成されている。さらに来年度改善できるように努力していきたい。

2. 今後取り組むべき課題

◎学年を超えた情報共有

コロナ禍もあり、学年を超えた情報共有に課題を感じている教職員が多い。情報共有の機会を積極的・定期的に設け、改善をしていく。

◎保護者とのかかわり

園バス利用児の保護者とのかかわりが少ないことが今後の課題である。保護者会・行事・個人面談を利用し、教職員の方から積極的にかかわりを持つ方法を探す。

◎時代の変化に沿った保育観を持つ

保育をめぐる状況は目まぐるしく変化している。ニーズに合った保育を行うため、教職員は時代の変化にあった保育観を共通して持つことが重要であり、今後も新しいことに恐れず挑戦していきたい。